

《決算の概要》

【連 結】

(単位：億円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属する 四半期純利益
28年3月期第3四半期	15,222(△2.7%)	1,414(7.3%)	1,178(22.9%)	791(11.9%)
27年3月期第3四半期	15,643(9.7%)	1,318(238.5%)	959(911.7%)	707(439.4%)

(注) パーセント表示は、対前年同期増減率

【個 別】

(単位：億円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益
28年3月期第3四半期	13,652(△2.6%)	1,209(7.6%)	952(20.1%)	663(3.9%)
27年3月期第3四半期	14,021(8.5%)	1,123(181.0%)	793(703.5%)	638(296.5%)

(注) パーセント表示は、対前年同期増減率

＜主要諸元＞

項 目	28年3月期 第3四半期	27年3月期 第3四半期
原油CIF価格(ドル/バーレル)	54.6	102.5
為替レート(円/ドル)	122	107
原子力設備利用率(%)	0.0	0.0

《販売電力量》

(単位：百万kWh)

	特定規模需要以外の需要			特定規模 需 要	合 計
	電 灯	電 力	計		
28年3月期 第3四半期	15,810 (△2.2%)	2,437 (△3.4%)	18,246 (△2.3%)	35,486 (△1.6%)	53,732 (△1.9%)
27年3月期 第3四半期	16,161 (△1.9%)	2,521 (△0.4%)	18,682 (△1.7%)	36,076 (△0.2%)	54,758 (△0.7%)

(注) パーセント表示は、対前年同期増減率

(注) 個々の数値の合計と合計欄の数値は、四捨五入の関係で一致しない場合があります。

《平成28年3月期（平成27年度）業績予想》

平成28年3月期（平成27年度）通期の業績予想については、今般、最新の需給状況等を踏まえ、平成27年10月28日に公表いたしました予想数値から、売上高および各利益の見通しを修正いたしました。

連結業績予想における売上高は、当社において、販売電力量の減少などにより、2兆800億円程度（対前回予想比1.4%減）となる見通しです。

経常利益は、原油CIF価格の低下による燃料費調整制度のタイムラグ影響の拡大が見込まれることなどから、1,400億円程度（対前回予想比21.7%増）となる見通しです。

親会社株主に帰属する当期純利益については、880億円程度（対前回予想比17.3%増）となる見通しです。

＜平成28年3月期（平成27年度）通期業績予想＞

【連結】

（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
前回発表予想	21,100	1,480	1,150	750
今回発表予想	20,800	1,740	1,400	880
(参考)平成27年3月期	21,820	1,697	1,166	764

【個別】

（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想	19,000	1,260	900	630
今回発表予想	18,700	1,470	1,100	730
(参考)平成27年3月期	19,516	1,405	892	624

＜主要諸元＞

項 目	今 回
販売電力量（億kWh）	755程度
原油CIF価格（ドル/バーレル）	51程度
為替レート（円/ドル）	121程度
原子力設備利用率（%）	0.0

《平成28年3月期（平成27年度）期末配当予想》

当社は、配当につきましては、安定的な配当を行うことを基本に、当年度の業績や中長期的な収支見通しなどを総合的に勘案し決定することを基本的な方針としております。

本日、業績予想を上方修正し、燃料価格の低下などに伴い燃料費が大幅に減少したほか、経費全般にわたる徹底した効率化に継続して取り組んだことなどから、昨年度を上回る利益水準を確保できる見通しとなりました。こうしたことから、これまで「未定」としておりました期末の配当金につきましては、上記の基本的な方針および東日本大震災等により毀損した財務体質の回復の状況などを総合的に勘案し、1株当たり15円とさせていただきますといたしました。

なお、本件につきましては、平成28年6月開催予定の第92回定時株主総会の決議をもちまして、正式に決定、実施する予定であります。

以 上